

仕事の目的伝え若者定着

宮坂建設工業が道創生協議会で取組紹介

コミュニケーションの充



自社の取り組みを発表する武山部長

てやってく
れる」と断
言。「昨年
の台風災害
の対応は大
変だった
が、辞めた
人という人
はいなかっ
た。それは
目的がしつ
かりしてい
たから」と
の考えを示
した。

第7回北

海道創生協

議会が16

日、京王プ

ラザホテル

札幌で開か

れ、宮坂建

設工業（本

社・帯広）

の武山純総

務部長が若

者の定着に

向けた取り

組みとして

研修や社内

実などを紹介し、「時間
外労働の適正化はハード
ルが高いが、全社挙げて
取り組んでいきたい」と
今後に向けた意欲を示し
た。

武山部長は、現場で付
く所長によって若手技術
者の成長スピードにばら
つきがあったことから、
体系化する研修を実施し
ていることを報告。若者
をどう使っていくかを考
えるのが仕事と述べ、「仕
事の意味、目的をしっか
りすれば、それに向かっ

若手の立場で育成を

宮坂建設工業・武山総務部長

道創生協議会で事例発表

第七回道創生協議会が十六日、札幌市内で開かれ、宮坂建設工業㈱（帯広、宮坂寿文社長）総務部長の武山純氏が「若者の呼び込み・定着に向けて」と題して事例紹介した。人材育成や社内コミュニケーションの充実など、同社の取組を



若者の呼び込み・定着に向けた取組を紹介する武山氏

説明。若手職員に対し、業務目的を明確に伝えることの大切さや、若手職員の立場に立った育成の必要性を強調した。一方で、「若者が望んでいるのは週休二日」とし、「業界としてハードルは高いが、働き方改革を社として推し進めたい」と述べた。

道は、道創生総合戦略を策定。五つの重点戦略プロジェクトに基づき、本道における地域社会の創生に向けた施策を、総合的・計画

的に推進することを目指している。

第七回会合では、高橋はるみ知事、道経済連合会の高橋賢友会長のあいさつに続き、道創生総合戦略に基づく主な取組を確認。若者の呼び込みと定着に向けた

事業を進める合同会社カミクマワークス代表の中神美佳氏、NPO法人北海道工ンブリッジ代表理事の浜中裕之氏が実践事例を紹介した。

意見交換では、武山氏が「宮坂建設工業の若者の呼び込み・定着に向けて」と題して事例紹介。同社の取組として、①人材育成②社内コミュニケーションの充実③CSR「世の為人の為につくせ」防災企業を目指す④ワークウェアなど制服の一新⑤働き方改革の五点を取り上げた。

人材育成では、人材力強化研修として、新入社員や若手職員のみならず、中堅・幹部クラスにおける研修の充実を説明。「若手職

員への要求が高まる中、どのように育てるかを考える機会。若い人はできないのではなく、使い切れていないのでは」と述べ、業務の目的を明確に、順を追って伝えながら説明することの重要性を指摘した。

社内コミュニケーションの充実については、社員の年齢層別に年二回以上の面談などを実施していることを紹介。「若者の気持ちに立たないと育てることができない」と述べた。

防災企業を目指した取組に関しては、昨夏の台風災害による国道二七四号日勝峠の災害復旧を例に挙げ、「果たす役割が明確であれば、若手が力を発揮してくれる」と強調。「若手が何

をやっているか分からない」という状況をつくらないよう工夫する必要があることを指摘した。

働き方改革では、i-Constructionの全面活用や在宅勤務制度新設、女性管理職の登用のほか、年次有給休暇積立制度や年末年始などを活用した連続有給休暇取得の推進などといった取組を紹介した。一方で、「若者が望んでいるのはやはり週休二日」と強調。今後予定している時間外労働の適正化に向けた改善委員会の立ち上げなどを例に、「業界としてハードルは高いが、社として推し進めたい」と述べた。

大樹の中神さんら 移住促進策を紹介

道創生協議会

北海道創生協議会が16日、札幌市内で開かれ、若者の移住促進について意見交換した。合同会社カミクマワークス（大樹町）の中神美佳代表（大樹町地域おこし協力隊）がマーケティングから発想する移住促進を提案した。

同協議会は、北海道の創生総合戦略について各界が意見交換するもので、この日が7回目。今回は移住促進などを

テーマに話し合った。

中神代表は「若者を地方に」と訴求することが効果的「な」と語った。

呼び込むために必要なこと

また、宮坂建設工業の武山

と題して実践事例を紹介した

純総務部長は若者の呼び込み

Ⅱ写真。若年層を呼び込むに

や定着に向けた同社の取り組み

は「十勝の魅力やイメージを

みを紹介。三越伊勢丹ヒュー

效果的に発信し、潜在的な移

マン・ソリューションズによ

住意向を高めていくことが必

る「人材力強化研修」を実施

要」と指摘。十勝管内への移住

し人材育成に取り組んでいる

をサポートする同社の取り組み

実践例を示した。

み事例として、移住を意識付

また、ワークウエアや女性

けるための情報源の提供や仕

社員の制服を有名デザイナー

掛け、段階的な施策を挙げた。

に依頼して刷新。働き方改革

その上で、これらを戦略的

では在宅勤務制度の新設や、

にマネジメントし、「十勝で

時間外労働の適正化に向け改

活動する人とのネットワーキ

善委員会を立ち上げるなどの

ングにより、「面白い地域感

活動を紹介した。（道下恵次）